

ルールを守る

4月13日（火）の中国新聞に、次のような記事が掲載されていました。

（見出し）机にコンパス 受験無効 広島県立高 今春入試で複数生徒

広島県の公立高の一般入試（選抜Ⅱ）を今春受験した複数の生徒が、コンパスを机の上に置いた行為が不正に当たるとして受験が無効になったことが12日、分かった。（略）複数の生徒は、初日の3月8日の数学の試験を同じ教室で受けていた。受験生は計7人で監督者は2人いた。開始約10分後、監督者が机の上のコンパスを没収。生徒は試験をそのまま受けたが、午後9時ごろに高校からそれぞれの保護者に電話があり、「不正行為による受験無効」を伝えられた。翌9日の試験は受けられなかった。要項には「鉛筆、鉛筆削り、消しゴム、定規、時計の他は携行できない」と明記している。（略）

一生に影響するかもしれない高校入試で起こったことです。その生徒は、要項をよく読んでなかったかもしれません。事前の中学校の先生の説明をよく聞かなかったかもしれません。もしかしたら、「これくらい、いいだろう」と甘い判断をしたのかもしれません。皆さんの中にも、説明を聞いていない人、何か注意された時に「知らんし」とか、「関係ない」と非を認めない人が残念ながらいます。社会では、ルール違反に対しては必ず罰があります。痛い目にあってからでは、遅いです。他山の石にしてみましょう。

*「他山の石」：「自分の人格を磨くのに役立つ他人のよくない言行や出来事」という意味

文房具

4月に、授業の準備についてのプリントが配布されましたが、その中で、「シャープペンシルまたは鉛筆2、3本」と書いてありました。勉強の苦手な人の中には、シャープペンシル1本しか持ってこない人がいます。授業中に先生から「じゃこの問題を各自でやってみよう」と言われ、他の子は書き始めていく中、芯が出ないといってシャープペンシルを分解していることがあります。時間的に損していますね。1本だけというのはやめましょう。逆に筆箱の中に、何本もの色ペンを入れて、必要な文房具を出すのに、時間をかけている人がいます。これも時間的にもったいないことです。シャープペンシルまたは鉛筆2、3本、消しゴム、2～3色のボールペン、1～2色の蛍光ペン、定規があれば十分です。必要なものがぱっと出せるよう筆箱の中身を見直してみましょう。

書く時の姿勢

シャープペンシル（鉛筆）を持つ手と反対の手を机の上に出しておく、正しい姿勢がキープできます。字も丁寧に書けます。また、その反対の手（右利きの人の場合、左手）を、解いている問題を囲むようにして書いていく、つまり、右の図のように人指し指と親指で問題をはさむように置いてみる。

そうすると、目線がピンポイントに問題に焦点が当たります。問題に集中できます。

